

いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)



12月号 発行 平成23年12月26日

〈東日本大震災関連〉



「いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果」について

福島県が行ったいわき地方の11月の農林畜産物のモニタリング調査の結果をお知らせします。

調査は23品目94点行い、放射性物質の検出限界値以下が17品目78点、暫定規制値内で検出されたもの6品目16点、規制値を超えたものはありませんでした。

放射性物質が検出されなかった農林畜産物は、トマト(施設)やミツバ(施設)、ブロッコリー、豚肉、原乳などで、一方規制値内で検出されたものは、果物のミカンとユズ、原木しいたけ、穀類の小豆と大豆、牛肉の6品目16点です。

一方、12月19日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が規制されているのは、栽培きのこの原木なめこ(露地栽培)や野生きのこです。

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま 新発売。」農林水産物モニタリング情報で簡単に検索できますので、結果を確認し、納得のうえ是非いわき市産の農産物を御賞味ください。

放射性物質が検出されなかったものの数	規制値内で検出されたものの数	暫定規制値超過したものの数	計
78	16	0	94

1点も放射性物質が検出されなかった農林畜産物	暫定規制値を超過した農林畜産物
トマト(施設) ホウレンソウ シュンギク(施設) ミツバ(施設) コマツナ サイモ ブロッコリー ナバナ ナガイモ 葉ネギ(施設) ハクサイ 豚肉 キャベツ イチゴ(施設) 原乳 キュウリ(施設) ネギ	なし



「農林地等除染基本方針」説明会が開催されました。

12月6日(火)、県文化センターにおいて、市町村・JA・土地改良区・森林組合担当者など約130名が出席して「農林地等除染基本方針説明会」が県農林水産部農林地等除染対策推進チームの主催により開催されました。

説明会では、県が策定した「福島県農林地等除染基本方針」についての説明が行われました。これは、市町村が除染実施計画を策定するにあたっての目安となるものです。

基本方針として、農用地については、除染することにより農畜産物や牧草のモニタリング等において放射性セシウムが検出されないことを目指しており、具体的な除染方法として、水田・畑地、牧草地においては、放射性物質の吸着資材を施用しての反転耕(土の表面と下の層を入れ替える耕し方)や深耕、樹園地においては、果樹の樹皮の剥ぎ取りのほか高圧洗浄機による樹皮の洗浄等を実施することとしています。

また、森林については、追加被ばく線量が年間1mSv(空間線量率0.23µSv/h)以下になることを目指し、除染については、住居等近隣の森林を最優先とし、林縁から20m程度の範囲で落葉等の除去を中心に行うこととしています。

参加者からは、「人員の確保のための仕組みを検討してほしい」「費用はどこまで負担してもらえるのか」などの質問があり、これに対して除染計画策定などを支援するとともに必要な費用はすべて措置する方針であることが説明されました。

今後、県では、除染の実効性を高めるため、「反転耕」等の実演会や研修会を予定しています。

加えて、除染技術の開発については国等と連携して研究を進めるとともに、実証試験結果等を踏まえ、必要に応じて本方針への追加を検討していくこととしています。



米の放射性物質の緊急調査（旧川前村）を実施

11月22日（火）、福島市旧小国村で生産された米から食品衛生法の暫定規制値を超える放射性セシウムが検出されたことを受け、いわき市旧川前村についても米の状況を把握するため緊急調査を実施しました。

調査に当たっては、いわき市農業協同組合及びいわき市の協力を得て、米を出荷する生産農家一戸当たり原則1検体以上、生産者の米50袋（30kg/袋）に1検体の割合で分析検査を行いました。

いわき農林事務所では、11月29日から12月8日にかけて最終的に128戸の農家、266検体を対象に簡易測定器（検出限界値：60Bq/kg（NaIシンチレーションスペクトロメータ））で測定を行いました。

その結果、全ての検体が、測定機器の検出限界値未満であることがわかり、旧川前村の米の安全性が確認されました。

今後は、9月から10月に行われた米の放射性物質調査（早期出荷米、予備調査、本調査）で少しでも放射性物質が検出された全ての地域において全戸調査を実施し、米についての安全性を確認することとしています。



放射線と農業に関する講演会を開催

11月27日（日）、いわき市農業協同組合本店において、認定農業者など約100名の参加により、「平成23年度放射線と農業に関する講演会」を開催しました。

講演会では、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 木村武氏より「農研機構が取り組んでいる農地土壌の放射線対策技術について」及び、東京大学大学院農学生命科学研究科 田野井慶太郎氏より「放射線と植物について」と題して講演をいただきました。

参加者から多くの質問が出され、放射線と農業の関係や今後の対策等について理解を深めていました。

また、いわき農林事務所より、これまでの農産物や農地土壌のモニタリング調査の状況、農業者戸別所得補償制度について説

明を行い、営農活動としての放射線対策への理解促進と制度の周知を図りました。

本講演会の開催により、今後、国や中央農業総合研究センターが進めている放射線対策や東京大学で解明中である農業と放射線の関係が明らかとなり、県の行っている試験研究や現場との連携が必要であることが認識されました。



（放射線と農業に関する講演会の様子）



いわきの農産物「直売所と生産施設めぐり」を実施

12月16日（金）、いわき市草木台の農産物直売所ほかにおいて、いわき農林事務所主催によるいわきの農産物「直売所と生産施設めぐり」事業を実施しました。

この事業は、東日本大震災及び原子力発電所事故により避難を余儀なくされた双葉郡の避難者と最寄りの直売所、農産物の生産施設を結ぶものです。今回は広野町の避難所を対象にして行い、10名の参加がありました。

始めに訪れた直売所では、各自念入りに品定めを行い、新鮮な野菜や加工品を購入していました。



（直売所で農産物の品定めの様子）

次に四倉町の生産施設とまとランドいわきでは、トマトやパプリカの栽培方法や生

産品の出荷に関する安全・安心確保のための取組みなどについて、担当者の説明を熱心に聞くとともに多くの質問を行っていたほか、収穫体験では、取り立てのトマトをその場で試食し、その甘さに驚いていました。最後は11月16日に再開したいわき・ら・ら・ミュウを訪れ、多くの魚介類や海産物などを購入していました。

参加者は、それぞれ各施設において抱えきれないほどの農林水産物などを見たり、購入したりして皆満足した様子でした。



(生産施設とまとランドいわきでトマトの収穫体験の様子)

この「直売所と生産施設めぐり」により、消費者と生産者との交流による絆づくりが図られるとともに、風評被害払拭のための安全・安心の取組みについて理解を深めていただくことができました。

〈一般情報〉



田んぼの学校「収穫祭(発表会)」を実施

11月19日(土)、いわき市立夏井小学校と連携した「田んぼの学校」で、今年の活動の締めくくりとなる「収穫祭(発表会)」を開催しました。

毎年、「収穫祭」は授業参観日に行っており、5年生は田んぼの学校の成果発表を行いました。

児童たちは父兄を前にこの1年間で行ってきた活動を振り返り、学習したことを班ごとに発表しました。劇を交えての発表やクイズ方式の発表もあり、ユーモアあふれるものとなりました。

今年、夏井小学校の学習田では、120kgのもち米を収穫しました。収穫した米は、放射性物質を測定し、暫定規制値以下であることを確認のうえ、授業参観終了後行われたPTAバザーに出品され、多くの人が児童たちが作ったお米を買い求めています。



(田んぼの学校の発表会の様子)



(有)平園芸が鉢花品評会で「いわき市長賞」を2年連続で受賞

11月29日(火)、いわき市中央卸売市場において、「第14回いわき市中央卸売市場花き部鉢花品評会」が株式会社いわき中央生花といわき花き鉢物研究会の共催により開催されました。

この品評会は、鉢花の一層の需要拡大と生産振興を図ることを目的として毎年開催されており、県内をはじめ栃木、茨城等の近県からシクラメン、ポインセチアなど108点が出品されました。

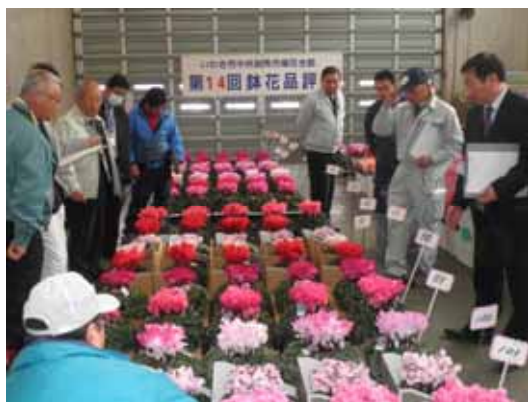
審査の結果、福島県知事賞には有限会社佐藤園芸(須賀川市)のシクラメン(シュトラウス6号鉢)、いわき市長賞には有限会社平園芸(いわき市)のシクラメン(オレンジフリンジ6号鉢)が選定されました。有限会社平園芸は2年連続の受賞です。



(2年連続市長賞を受賞した(有)平園芸のシクラメン)

今年は、東日本大震災により鉢物生産施設の破損や流失等に加え、東京電力福島第一原子力発電所事故による風評被害や腐葉土の利用制限など様々な問題が発生し、困難な状況の中で生産されたにも拘わらず、

出品された鉢花は、いずれも例年より花揃いが良好で、葉の乱れも少なく、葉組（中心部に花を咲かせるための葉の組み替え）など丹念に手が加えられたことがうかがわれ、鉢物生産者の復旧・復興への意気込みが感じられる品評会となりました。



(鉢花品評会の審査の様子)



広域農道いわき地区で橋梁架設工事を実施

12月10日（土）、いわき市四倉町八苺地内において、広域農道いわき地区の第5号橋梁の上部工（橋桁）架設工事が実施されました。

この工事では、前日までにトラックで搬入した工場製作の鉄製橋桁を組み立てて、長さ約30m、重量約12tの主桁4本と横桁を設置します。

この主桁などを架設するため、200t吊りのトラッククレーンを使って橋桁の架設が開始されました。大きな構造物が空中をゆっくりと移動する姿は、まさに迫力満点です。

施工業者の綿密な施工前の準備により、予定した終了時間前までに全ての架設を無事に終了することができました。

架設後は、車両が走行するための路面や付帯設備の工事を行い、3月までに終了する予定です。

この橋梁の前後を含めた区間の供用開始については数年先となる見込みですが、本広域農道は、「いわき地域」の農業復興のため、流通において大きな役割を担うことが期待されます。

いわき農林事務所では、着実に整備の進捗を図っていくこととしています。



(桁の架設工事の様子)



貝泊中学校で「木工クラフト出前講座」を実施

12月6日（火）、いわき市立貝泊中学校において、同校1、2年生4名を対象として木工クラフトの出前講座を開催しました。

今回の出前講座は、身近な自然の素材を利用した作品づくりを通して地域の森林の利活用を目的として実施しました。

最初にいわき農林事務所の樋田主査が講師を務め、福島県やいわき市の森林の状況、森林の持つ多面的機能（生物多様性保全機能、地球環境保全機能、土砂災害防止機能、水源かん養機能等）について、クイズなどを交えながら説明を行い、生徒たちに理解を深めてもらいました。

説明後は、それぞれで集めてきた木材や枝のほか松ぼっくりなどを材料に動物などを作りました。

はじめは材料をどのように組み合わせる作品にしていくか戸惑っていた様子でしたが、先生方との会話やアドバイスなどによりどの生徒も個性的な作品を仕上げ、木を使ったものづくりを楽しんでいました。



(木工クラフトに挑戦している様子)

いわき農林事務所からのお知らせ



ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new.fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう 福島応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1)モニタリング情報検索
 - (2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」及び「原発事故」からの復興のために！

がんばっぺ “ふくしま!!” がんばっぺよ “いわき!!”

皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

TEL (0246)24-6152 FAX (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>

E- Mail iwaki.nourin@pref.fukushima.jp

